

# 生涯敵対し合う

## 犬猿の仲、

## 関義臣と由利公正

**関** 義臣（旧名・山本龍二郎）は、天保10（1839）年、福井藩の家老である本多家家臣の次男として、府中（現在の越前市）に生まれました。藩校明道館に学び、同館幹事橋本左内に認められて幹事局手伝いとなります。その後、諸国巡学を経て、昌平坂学問所に入學。在學中の元治元（1864）年には、国事探索方（藩外での情報収集等を担当）に就きました。しかし、幕政返上論を主張する関と公武合体を目指す福井藩との間には大きな隔たりがあり、関は藩を離れます。

慶応2（1866）年、長崎に坂本龍馬を訪ね、亀山社中（後の海援隊）に加わりました。そして、翌年には、龍馬や後藤象二郎と協議し

て大政奉還の建白書の草案を作成しています。

関の性格は、素朴でへつらうことが嫌いな直情型で、頑固な気質でした。そして、生涯を通し、同じ福井藩の由利公正と激しく対立したことで知られています。二人は横井小楠門下で机を並べた学友でしたが、異常に反目しあいます。

文久3（1863）年、関は、小楠や由利が計画した挙藩上洛計画を阻止しようと動きまわります。これは、福井藩が孤立することを危惧して起こした行動でしたが、小楠・由利からは反発と捉えられます。

明治元（1868）年には、京都・岡崎の福井藩邸に滞在していた関が

徳川氏が倒れ、真の王政維新に遭遇でき、こんな愉快なことはないと口を滑らせます。同席していた由利は大いに憤慨し、関を入獄させるか切腹させるべきだと主張するほどでした。

対立はさらに続きました。大阪府知事を務めていた後藤の要請で大阪府の営繕局等を取り仕切りましたが、明治2（1869）年、福井藩と関わりの深かった清水磯吉を捕縛したことにより由利との関係は決定的となります。福井藩は大阪府に対し、執拗に関の解任を要請。それに応えないと見るや、関の拉致および強制帰藩、そして府中の関の兄宅への幽閉にまで対応をエスカレートさせます。さらに、明治3（1870）年には、主家本多家の華族加列問題に端を発した武生騒動に関が関与したとして捕縛し、死罪にしようとしています。その主導者は由利だったのです。

死罪を免れた関は、その後、大審院検事や徳島県知事、山形県知事、貴族院勅撰議員などを歴任。明治40



関義臣肖像  
（『明治肖像録』より）

（1907）年9月には、男爵の爵位を授けられています。関は、由利の政敵大隈重信とも親しかったこともあり、その後の明治新政府においても由利との敵対関係は続いたのです。

関の死後、遺族により武生図書館に寄贈された蔵書の中に芳賀八彌『由利公正』があります。本書には関の直筆で「由利ノ虚誕虚喝ノ多キ人ヲ欺キ世ヲ欺キ後ヲ欺ク・・・」と記された付箋が貼られており、生涯敵対した二人の関係を今に伝えています。

### 関連史料・ゆかりの地

#### 明道館（明新館）跡



松平春嶽が将来の有望な人材を育成するために設けた藩校、明道館。その跡地には今ひっそりと石碑が建っています。由利公正、関義臣、日下部太郎（福井藩最初の海外留学生）らを輩出。維新後は「明新館」に名称変更されました。

【住所】福井市大手3-4-1（放送会館東北角）（JR福井駅より徒歩5分）